アカマツ林調査～幼木･成木調査～

1. はじめに

アカマツ林の保全活動は、今年度より新５ヶ年計画に基づく新たなスタートを切りました。

昨年度、この新５ヶ年計画を決定していく過程において、アカマツ林調査については、調査結果を今後の整備作業や計画に反映させていくことの重要性が再確認されました。

これに伴い、今年度はこれまで実施してきたアカマツ成木、幼木のそれぞれの調査について、調査方針や実施方法の見直しを行うこととしました。

今回はこの見直しの内容と今年度実施した活動内容についてご報告します。

2. 成木調査について

（１） 見直しの内容

調査によって、アカマツ林全体の成木の生育状況やマツ枯れ被害等を把握し、Ａ～Ｆ地区の各区画ごとの状況に応じた整備作業の計画に役立てるため、次のように見直しを行いました。

■調査対象

【これまで】林内の２か所に設置した 20m×20 m の方形区内の成木を対象

⇩

【今　後】 アカマツ林Ａ～Ｆ地区の全成木を対象

■調査内容

【これまで】胸高直径、樹勢、樹高を数年ごと測定

⇩

【今　後】 胸高直径は毎年測定。樹高は 3~5 年ごとに測定。

（２） 今年度の調査について

上記の見直しに基づき、１月 18 日（日）にＡ～Ｆ地区全ての成木（樹高 1.3M以上）を対象に、胸高直径の測定と各個体の状態の記録を行いました。

なお、次回調査時に測定木の確認と胸高直径の測定がスムーズに行えるよう、新たに個体識別用のナンバーラベルを胸高直径の測定位置に設置しました。

※　今回の成木調査の詳細は別途報告したいと思います。

3. 幼木調査の見直しについて

（１）これまでの調査区での幼木調査終了

昨年度まで調査を実施していた場所では、調査開始より７年が経過したことで、幼木各個体の成長がかなり進んでしまったため、幼木調査としては一旦終了することとしました。

今後は間引きを行い、残す本数の違いによる比較など成木調査の一環として調査を行う予定です。

（２）新たな調査の実施

これまでの幼木調査終了に伴い、今後は新たな調査を実施します。

新たな調査では、得られた結果を今後の整備作業の計画に役立てることを目的に、異なる環境・条件の違いによる２つの比較検証調査を行います。

①地掻き処理の違いによる比較

- 地掻き処理「あり」「なし」の違いによる実生幼木の発芽、生育、定着状況を把握します。

②光環境の違いによる比較

- 地表面が「明るい」「暗い」かの違い（光環境）による幼木の発芽、生育、定着状況を把握します。

（３）今年度実施事項

次年度以降新たな調査を行うにあたり、各調査の調査場所（次ページ参照）に、比較する２つの方形区（2M×2M）をそれぞれ設置する作業を１月 24 日（土）に行いました。

4. おわりに

新５か年計画とともにアカマツ調査も心機一転ということで、次年度以降の調査でどういった結果が見えてくるのか非常に楽しみです。

次年度の調査日にはぜひ皆さまご参加ください。

（アカマツ林調査　世話役　中嶋）

新幼木調査実施エリア図

地掻き「あり」と「なし」

明るいエリア

☆・・・調査区設置ポイント

入口部の広葉樹を除伐し、
アカマツの大径木を見せる

下層の草花の保全

保存する観察木の検討

A地区

B地区

C地区

D地区

E地区

F地区

光環境（明暗）の違いによる比較

遊歩道沿いはアカマツの単林化を図り
アカマツ林の連続性が見える

地掻き処理「あり」「なし」による比較

広葉樹を除伐し、
アカマツの大径木を見せる

地掻きと広葉樹の除伐を進め
実生や幼木が育つ空間を確保する

暗いエリア